

タイトルデザイン 佐藤良助氏

エル プエンテ (橋) 秦野市立図書館報

No.36 (たんざわ号40周年記念特集)

2008. 11

自動車文庫「たんざわ号」40周年を記念して

1 たんざわ号の歴史

移動図書館車は、図書館から離れた地域にお住まいの方、図書館に来館するのが困難な方たちのために、車に本を積んで地域に出向いて本の貸出しを行う館外奉仕サービスです。

秦野市立図書館の「たんざわ号」は県内市町村としては最も歴史が古く、昭和43年7月、秦野ロータリークラブから寄贈された軽自動車を改造し、積載能力600冊の第1号「たんざわ号」として巡回を開始しました。

第1号車巡回の頃の思い出は、元図書館長であった杉山武彦氏にご執筆いただきました。

現在の「たんざわ号」は6代目となり、平成17年4月に子どもの本離れを心配された市内の篤志家から、「読書活動の推進に役立てて」と寄付をいただき、製作、巡回しています。

ボディはブルーを基調にして、青空

のような大気、清らかな水をイメージしています。

現在のたんざわ号 6号



そこにアルファベットの文字が白抜きで描かれ、ピーナッツとカーネーションの地場産品がデザインされています。

デザインは市内在住の陶芸家の方にお願ひしました。

側面パネルのアルファベットにも、それぞれ意味があります。Qはクエッション(質問)、Fはフューチャー(未来)、Sはスタディ(勉強、学習)、Zはゾーン(地域、区域)、Kはノウ(知

る)、Wはワールド(世界)、Pはピープル(人々)、Cはチョイス(選択)、Gはグリーン(緑)、Aはアンサー(答え)、Tはトーク(語る)、Xはエックス(文字の終わり、未知の人、物)、Rはリクエスト(要求、依頼)、Lはライブラリー(図書館)、Eはエンプティ(あける、注ぎ込む)、Uはユニバーサル(共通の)、Iはアイ(私)です。

積載冊数は、約2,000冊で内訳は一般書700冊、絵本などの児童書が1,300冊です。

巡回場所は市内の小学校・児童館など21箇所を、ほぼ2週間に1回巡回しています。

歴代たんざわ号の車両

たんざわ号 1号 昭和43年 7月



たんざわ号 2号 昭和47年 7月



たんざわ号 3号 昭和54年 5月



たんざわ号 4号 昭和58年 8月



たんざわ号 5号 平成3年 8月



歴代「たんざわ号」の車両です。皆さんが利用されたことのある「たんざわ号」はありますか。



2 図書館と自動車文庫

昭和54年までは、図書館旧館より「たんざわ号」の利用冊数の方が多く、昭和54年度は、年間50,982冊の貸出がありました。前年の昭和53年度はピークで年間63,890冊、54の巡回箇所を巡回していました。

昭和60年に現図書館が開館し、自動車文庫の利用冊数は昭和59年度の半分以下に減りました。その後、平成13年度から平成16年度は減少の傾向にありました。

しかし、平成17年に現6号車が巡回を開始して、2週間に1回の巡回日程と巡回場所の見直しを行ったことにより、前年貸出冊数の2倍近くのご利用をいただきました。

40年前と比べると図書館も新設され、蔵書も増え、自宅のパソコンから読みたい本の有無を調べることができるようになりました。

11の公民館図書室ともオンラインで結ばれ、火・木・土曜日の週3回、図書館と公民館との連絡便も充実してきましたが、図書館や公民館まで遠い方や利用するのが困難な方たちのご要望も多く、また、これからの児童サービスの要として、自動車文庫の役割はますます重要になってくるものと思われま



3 「たんざわ号」に寄せて

- 「たんざわ」1号が走っていた頃
杉山武彦氏（元図書館長）
「たんざわ号」40周年おめでとう

ございます。1号から6号までのクルマさんにもご苦労さまでした、と声をかけたい思いです。

私が「たんざわ1号」とかかわることになったのは、昭和46年（1971）7月のことでした。それまでは、うかつにも「自動車文庫」の存在すら知りませんでした。〈1号〉には、市内の「奉仕団体」から寄付があつて、開設が実現したと記憶しております。

〈スバル360〉の後部座席を、書架に改造したもので積載冊数は600冊くらいではなかったでしょうか。馬力の十分あるとは言えないクルマに、体格のご立派な原辰館長が助手席にすわって、小型の「移動図書館車」は町中や山間部を、あえぎあえぎ走っておりました。

このごろのような交通量のはげしい時代ではなかったので、「初心者」の私が運転していても（その期間は数カ月でしたが）、なんとか切りぬけることができました。のどかな時代でありました。

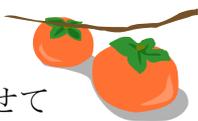


■老骨の辯

上沼八郎氏（鶴巻在住）
丹沢の麓に棲みて図書（ふみ）運ぶ丹沢号のおとずれを待つ

よほど本に縁があると見え大学では2、3校とも図書館長、退職以来晴雨読、古い史書を選んで全集にまとめる仕事は趣味、世間の動きは丹沢号に注文した本で学んでいる。「老イテ学ベバ其ノ骨朽チズ」と古人も言う。

「骨」とは精神のこと、白内障もなんのその、毎日老眼を酷使、しかし心ゆたかに過ごしている。



■ 「たんざわ号」に寄せて

山下千枝子氏（鶴巻在住）

都心から引越して来て早25年、「たんざわ号」とのおつきあいはほぼ10年。

独身時代は月1回、神保町界隈の本屋をハシゴしてお気に入りの喫茶店でひとときを過ごすのが私のささやかな楽しみでした。遅まきながらの結婚後は経済的空間的時間的にそれもママならず、もっぱら近所（徒歩5分）の図書館を利用していました。

鶴巻に来てからは秦野市立図書館まで電車・バスと不便で困っていた折たまたま「たんざわ号」の存在を知りそれ以来、月2、3回「たんざわ号がまいりました」の声を聞きつけるとはるか昔、紙芝居の拍子木の音を聞きつけたときのように喜び勇んで公園に駆けつける次第。そして我が家で予約した本を横目にコーヒーをのむのが私の至福のときです。

今では「たんざわ号」は私にとってなくてはならない存在です。感謝！！



■ 「たんざわ号」について

渡部昌子氏（大根在住）

平成2年に当地へ引越してまもなくたんざわ号のサービスを知り早速利用させていただいております。

本は沢山読みたいものの置き場所や経済のことを考えると、欲しいだけ

買うことはできません。リクエスト制度は大いに有効で、夫と二人で年間120冊以上も希望する本の貸出しが受けられるのは嬉しいことです。

平沢の本館は遠いので巡回図書館は大変有難い存在です。



■ 親子で利用しています

「たんざわ号」

佐治裕美氏（曾屋在住）

たんざわ号40周年おめでとうございます。

私がたんざわ号を利用し始めたのは最近の事で古い歴史があるとは知りませんでした。利用するきっかけは娘が本を読むのが大好きで、片道車で20分の図書館へよく行っていました。

もっと近くにあれば便利だなあと思っていたら図書館の受け付けカウンターにたんざわ号巡回予定表が置いてあり近所まで巡回している事を知りました。

小さい車内には沢山の本がビッシリと並べてあり、本好きの娘にとっては夢のような車で、いつも嬉しそうに本を選んでいきます。

絵本や図鑑、紙芝居も豊富ですし、オススメや季節の本が見やすく展示してあるのも嬉しいです。インターネットで予約した本が受け取れるのも便利です。同じ本が長期間並んでいる事があるので、早い周期で入れ替えてもらえると本を選ぶ楽しみが増えると思います。素朴な音楽とアナウンスで到着を知らせてくれるたんざわ号をこれからも親子で利用します！

4 「たんざわ号」1号誕生当時の世相（昭和43年）

「たんざわ号」1号誕生の頃は、こんな事件がありました。

1968（昭和43）年10月

川端康成、ノーベル文学賞受賞。

1968（昭和43）年12月

3億円事件発生。

1969（昭和44）年7月

米アポロ11号「月の静かの海」に着陸。

1969（昭和44）年11月

佐藤首相訪米。

（ニクソン大統領と会談、共同声明、47年に沖縄返還を発表）

1970（昭和45）年3月

日本万国博覧会大阪で開幕。

1970（昭和45）年11月

三島由紀夫、楯の会会員を率いて割腹自殺。

1971（昭和46）年6月

沖縄返還協定調印。



昭和43年のベストセラー

「どくどるマンボウ青春期」

北杜夫 中央公論社

「民法入門」 佐賀潜 光文社

「竜馬がゆく」 司馬遼太郎 文藝春秋

「愛」 御木徳近 ベストセラーズ

「不信のとき」 有吉佐和子 新潮社

出典「最新昭和史事典」毎日新聞社 1986年刊



昔、読まれた本をもう一度読んでみたい。でも、本屋さんにはない、絶版になってしまっている等の気になる本がありましたらお尋ねください。

図書館で所蔵していれば、保存書庫からお出しして提供することができます。



図書館のマスコット「よむよむ」

5 「たんざわ号」のある日の一日

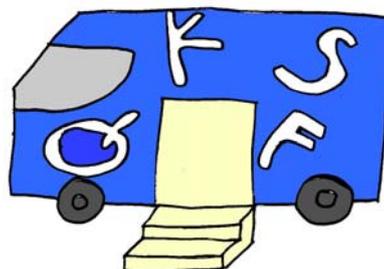
「たんざわ号」の一日を振り返ってみました。巡回日、巡回場所などは、図書館にお問い合わせください。

図書館のホームページでもご覧になれます。



10:00 巡回のための準備

携帯コンピュータに必要な情報を入れます。巡回場所に合わせた本や新しい本を車にのせます。この仕事が一番重要です。毎日、その日に積んで行く本の入れ替えをしています。予約された本の手続きをして車にのせます。



13:30 巡回場所に向けて図書館を出発

夕方まで3箇所（または4箇所）児童館、小学校、幼稚園などを回って本の貸出を行います。



16:40 巡回場所から帰館。

図書館カードの登録、貸出、返却のデータを図書館のコンピュータに入力します。

予約を受けた本をコンピュータで検索して、予約をかけます。

図書館にない本は購入することができるか検討します。次の日の巡回場所で予約のある方に届ける本の連絡をします。



5月の子どもまつりの時の「たんざわ号」



運動公園のイベントに参加しました。今年で40周年を記念してジャスコにも出かけました。市民の日にも初参加します。どこかで見かけたら遊びに来てね！

あとがき



図書館報36号をお届けします。原稿の執筆にご協力いただきました、皆様ありがとうございました。

お陰さまで『たんざわ号40周年記念特集号』を発行することができました。これからも「たんざわ号」は走り続けます。

皆様も「たんざわ号」を応援してください。

EL PUENTE 秦野市立図書館報 No.36 (たんざわ号40周年記念特集)

発行日 2008年(平成20年)11月3日

編集発行 〒257-0015 秦野市平沢94-1 電話 0463-81-7012

秦野市立図書館